

## 令和7年度 第1回越谷市立小中学校学区審議会会議録

- 1 開催日 令和7年7月29日(火)
- 2 会場 中央市民会館 5階 第4～6会議室
- 3 開閉会 開会 午後3時00分  
閉会 午後4時30分
- 4 出席委員 深井 晃 委員 杉本 隆 昭 委員 萩原 弘 之 委員  
榎原 久 隆 委員 和田 昌 子 委員 後藤 桂 子 委員  
阿達 富美子 委員 小池 美 佳 委員 浅井 亜由美 委員  
馬場 れい子 委員 石塚 忠 男 委員 深野 弘 委員  
内田 泰 代 委員 吉井 仁 実 委員 加瀬 朱 子 委員  
星 薫 泰 委員 五味田 真紀子 委員
- 5 欠席委員 滝 本 守 委員 鈴木 実 委員 高山 水 子 委員
- 6 事務局出席者  
学校教育部長 磯山 貴則  
学校教育部副参事兼給食課長 小澤 正和  
学校管理課長 斎藤 邦貴  
指導課長 千嶋 淳一  
教育センター所長 田嶋 栄藏  
学務課学事担当主幹 武内 英樹  
学務課学事担当主任 黒沢 朱莉  
学務課学事担当主事 青谷 奈津季
- 7 報告事項  
令和6年度第3回越谷市立小中学校学区審議会会議録について
- 8 協議事項  
(1) 通学区域設定の適正化について  
(2) 今後のスケジュール(案)について

### 【令和7年度第1回越谷市立小中学校学区審議会会議録要旨】

- 1 開会
- 2 報告事項  
審議会条例第5条第2項の規定により、星会長が議長となり議事を進行する。  
令和6年度第3回越谷市立小中学校学区審議会会議録について  
事務局より前回の審議会会議録について説明を行い、原文のまま承認された。
- 3 協議事項  
(1) 通学区域設定の適正化について  
事務局 資料に基づいて説明を行い、様々な見地から今後の方向性について審議をお願いした。  
議長 委員に質疑・意見を求める。  
(質疑・意見)  
委員 単一自治会において学区が割れていると、活動がうまくできないということが出

てくる。3～4年前からすればだいぶ直ってきたが、学校が違ってくるとなかなか息が合わないことがあるので、今後は上手く整合性が取れるようになればよいと思う。

議長 ご意見として承る。

委員 資料の図について、35ページの黄色い丸で囲ってある部分は単一自治会の中で一部分のみ違う学区になってしまっている。それは個別の事情があったのか、過去の経緯は把握しているか。

事務局 昭和の終わりの区画整理により、大泊の飛び地だった場所がなくなりました。しかし、学区としてはその部分が従前のままになっていると聞いています。

委員 今考えると矛盾していると思うような学区であっても、学区を定めた当時としては安全性の問題や人口の問題を考慮すると自然な成り立ちだったのだと思われる。

委員 中学校選択制について、規模の大きい学校については受け入れ人数を増やす等、弾力的な運用はできないか。

事務局 今後、中学校において、40人学級から35人学級になった場合は逆に定員を減らさないといけなくなる可能性もあります。また、受け入れを増やした場合には、近隣の学校の人数が減ってしまう可能性があります。また、学校の施設規模等も含めて検討が必要かと思います。

議長 中学校選択制の人数そのものについては学区審議会の協議の対象ではないとのことであるため取り上げないが、教育委員会の方でも委員からの意見として受けとめてもらいたい。

委員 保護者の要望、地域や自治会の区割りとの整合性の問題、小学校と中学校の学区の整合性について、何を優先して考えればよいのか。教育委員会としての方針はどうか。

議長 従来から小学校と中学校の学区をなるべく合わせる方針でやってきている。それを基本として、コミュニティと学区をいかに合わせていくかを勘案してご審議、ご意見をお願いしたいということだと思う。

委員 地域によってケースバイケースだと思うから対応を統一するのは難しいと思う。

議長 おっしゃる通り。そこが一番の悩みどころ。逆に私からの質問ですが、学区に合わせてコミュニティを再編することは難しいか。

委員 そんなことはない。協議することはできる。

議長 コミュニティの区割りや学校の統廃合など、他の審議会と共同で話を進めていく必要も今後は出てくると思う。

委員 大袋北小の保護者から、千間台中に行くと同じ小学校出身の子がクラスに1～2人しかいないためアウェーになってしまう。どうにかできないかとの相談を常に受けている。まずは子どもの気持ちを第一に考えてほしい。学区を変えることが難しいのであれば、中学校選択制の弾力的な運用ができればよいと思う。

委員 大吉自治会は、目の前が弥栄小なのに基本学区は新方小。新方小は人数が少ないので地域を広く取っているのだと思うが、弥栄小学校区に変えてもらいたい。他の保護者からも同様の要望を聞いたことがある。

議長 今の意見は保護者の方からすると当然の考えだと思う。しかし、そうすると自治会が分断されてしまうため、学区の話、学校への通学距離の話、コミュニティ区割りの話。すべてを勘案して考えていかなくてはならないと思う。

委員 単学級の学校を合併できないか。人数が少ないと学校として成り立たない。先ほどの話は、新方小と弥栄小を合併すればよいのではないか。

また、中学校選択制について、選択制で70名を受け入れするようになれば、近隣の小さい学校は人数が減少すると思う。小さい学校は悲鳴をあげる。住んでいるところに通うほうが中学校についてはよっぽど上手くいくと思う。逆に小学校は選択制を導入して近くの学校に行けるようにした方がよいと思う。

あと、学校の合併に学区審議会はどのように関われるか教えてもらいたい。

事務局 統廃合については、今後新たな取組みを考えていかなくてはならない。今後どのような形でやるのがよいか教育委員会事務局を含めて検討していきます。

議長 中学校選択制は、小学校区と中学校区が完全に一致していれば、必要なくなると思う。他の目的で制度が導入された可能性もあるので完全にはなくせないかもしれないが、小学校区と中学校区の完全一致を目指したい。

委員 選択制が導入されたのは部活の問題だったと思う。学区と先ほど言われた選択制はちょっと違うと思う。

#### (2) 今後のスケジュール（案）について

事務局 今後のスケジュール（案）について事務局案を説明した。次回の審議会は11月21日（金）を予定。

議長 委員に質疑・意見を求める。  
(質疑・意見なし)

#### 4 閉会

以上